2021 12 vol.93

ヨコハマよみうり
Yokohama Yomiuri

■発　　行／横浜読売会
■発 行 日／毎月5日
■発行エリア／横浜市内全域
■制　　作／ヨコハマよみうり編集部
〒231-0021
横浜市中区日本大通7
日本大通7ビル4F YBP
http://yokohama-yomiuri.co.jp

神奈川県
ワクチンは、自分のため、大切な人のため
新型コロナワクチン接種を受けましょう
感染対策も忘れずに
詳しくはこちら

『ジャック＆ベティ』といえばかつて使われていた英語の教科書。懐かしく思い出される方も多いだろう。その名を二つのスクリーンに冠したミニシアター、シネマ・ジャック＆ベティは今月30周年を迎える。学生時代から映画や舞台を観ては語らい、皆で共有することが大好きだったという支配人の梶原俊幸さん。映画愛と、ミニシアターを大切に思う熱い思いを語っていただいた。

シネマ・ジャック＆ベティ支配人
梶原　俊幸さん
Kajiwara Toshiyuki

1977年横浜生まれ、東京育ち。慶應義塾大学環境情報学部卒業。若き日より音楽や映画などのムーブメントを共有することに興味を持つ。2007年3月より同館支配人に。第68回（2019年度）横浜文化賞 文化・芸術奨励賞受賞。

映画の舞台・黄金町

横浜で生まれて吉祥寺で育ちました。母の実家が横浜駅に近い戸部というところで、山下公園や元町によく連れて行ってもらい、横浜ってかっこいいなと思っていました。

30歳少し手前の頃、大学時代の友人が黄金町を紹介してくれたんです。今まで持っていた横浜の印象とはまったく違う下町っぽさに驚くとともに、とても惹きつけられました。永瀬正敏さん主演の映画『私立探偵 濱マイク』シリーズの舞台にもなった映画館もこの街にあり、ちょっと怪しい、昔懐かしい雰囲気で。その頃、横浜市主導の下、アートな街づくりに取り組み始めていた時期でした。来ていただければわかりますが、今は下町っぽさを残しつつ明るい雰囲気の街並みになりました。

渡されたバトン

シネマ・ジャック＆ベティの前身は横浜名画座という映画館で、オープンしたのが1952年。もうすぐ70年になる歴史があります。戦後この辺りは接収されて米軍の飛行場があったそうです。

黄金町を知りこの街の文化芸術活動に貢献できないかと、仲間とホームページのブログを書いたりお客さんと交流したりとボランティアでジャック＆ベティを応援していたのですが、映画館の運営会社の方から君たちがこういう活動を続けていくつもりなら、映画館ごと引き受けないかと提案があって。まさか我々が映画館の運営をという思いはありましたが、ここはその2年ほど前に一度閉館していたという経緯もあり、断ってしまったら映画の舞台になるほどの街に残された映画館が近いうちにまた閉まってしまうかもしれない、なんとかしなくてはと悩んだ末に仕事を辞め、仲間3人で運営を引き継ぎました。今から15年前のことです。

当時の経営はやはり厳しく、お客さんが少ない日々が続きました。試行錯誤していく中、都内ではよく行われていた監督さんや俳優さんの舞台挨拶を横浜でもできないかと依頼してみたところ、快く劇場にいらしてくださって。今、週末には毎週のように舞台挨拶やトークショー、交流会をしています。小さな劇場なのでいい距離感でコミュニケーションをとれて、お客さんはもちろん、作品の感想を直にもらえると監督さんや俳優さんにも喜んでいただいています。

ミニシアターだからこそ上映できる、観る価値のある良作にこだわりつつ、邦画、洋画をはじめ、世界中のさまざまなジャンルの作品を年間350本ほど上映しています。

30周年に映画『誰かの花』誕生

企画映画のお話をいただき『誰かの花』の脚本をはじめて読ませていただいた時、これはお祝いのためだけの一過性の映画ではないなという印象を受けました。横浜出身の監督・奥田さんの作家性の下、一本の作品を作る、それがたまたまジャック＆ベティの30周年というタイミングなんだなと。お祝いの映画として、にぎやかしに映画館の関係者が出るお飾りみたいな作品だとしたら、多分それは後に残らない。しかしこれは残り続ける作品になるだろうと感じました。当館の30周年がきっかけで素晴らしい作品が誕生し、それに協力できたこと、そして我々もそこに立ち会えたことが本当にありがたいと。

豊かな“映画体験”を今こそ

そもそも監督さんや俳優さんらの制作側は、映画は映画館で観てもらうことを想定して作っています。もちろんDVDやネットで観ることも一つの方法ですが、やはり映画館で観るということは映画の一番豊かな楽しみ方なんじゃないでしょうか。自宅で観るよりも濃密な印象が残るでしょうし、わざわざ足を運んで観るということは、そこでしか得られない体験があるはずだと。私が育った吉祥寺にも自転車で行ける距離に街の映画館があり子どもたちだけで誘い合って観に行ったものです。目当ての映画のほか、同時上映の作品が実は面白かったり、貼ってあるポスターで映画を知ったり、足を運んだことで広がる世界がありました。そういう豊かな映画体験をぜひしていただきたいなと思います。

今、世の中が分断しているというか、窮屈感があるように思えてなりません。本来は白と黒だけじゃない、良くも悪くもない曖昧なものがもっとあっていいはずだと思うんです。『誰かの花』は、観ていただいた後にたっぷり余韻が残る作品で、観た人が自分の中で想像を膨らませて完結するという、映画本来の楽しみ方を感じさせてくれるような作品です。ぜひ映画館でご覧いただければと思います。

シネマ・ジャック＆ベティ30周年企画映画
『誰かの花』
脚本・監督：奥田裕介
出 演：カトウシンスケ　吉行和子　高橋長英 ほか
12月18日（土）～12月24日（金）
シネマ・ジャック＆ベティにて先行上映
2022年1月29日（土）～
シネマ・ジャック＆ベティほか全国の映画館でも上映予定

12月11日（土）東戸塚で相談会
主催／積水ハウス　協力／フジサンケイ企画

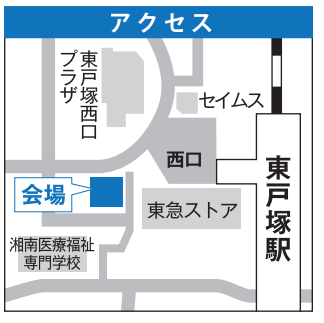
将来心配な相続税。80％も節税できる特例ってご存知ですか？

税理士に聞ける！「相続の無料個別相談会」開催

相談会概要
■日　程　12月11日(土)
■時　間　① 9:30～10:10　② 10:20～11:00
③ 11:10～11:50　④ 12:00～12:40
※ご希望の相談時間をお伝え下さい。後日、主催者より確定の連絡があります。
■定　員　各回１組
※完全予約制、参加費無料
■相談員　アンカー税理士法人 増田 朋希さん
■会　場　SSビル2階（受付は3階にて）JR東戸塚駅西口徒歩2分
■申　込　相談会事務局（フジサンケイ企画内）
0120-505-470
10:00～17:00 無休
申込URL https://ansapo.jp/semi/1748
※応募者の個人情報は、相談会運営と今後の案内に利用します。

こんな人は相談してみませんか
- 首都圏に土地や空き家を所有している
- 小規模宅地の特例って？
- 資産整理に悩んでいる

アクセス



人口の4人に1人が65歳以上の高齢化社会を迎えた日本。平成27年1月に相続税法が改正され、相続税の大増税時代が始まりました。税制改正前であれば相続税がかからなかった人も対策が必要になるなど、相続の話はもう他人事ではありません。家族の大切な資産を守り継ぐためには、親子が一緒に将来を見据えて対策を考えておくことが大切。

例えば「小規模宅地等の評価減の特例」。二世帯住宅を建築し、一定の要件を満たす人がその土地を相続した場合、相続税を計算する上での土地の評価額を最大80％減額することができます。また、「相続で空き家となった家屋とその敷地の譲渡減税」はご存知ですか？空き家を相続して売却した際、一定の要件を満たすと譲渡所得から3,000万円を控除することができ、税負担を大幅に軽減することも。

個別相談会では経験豊富な税理士に相談ができ、税制相談と合わせて、一級建築士によるプラン相談も可能。積水ハウスは分譲事業も手掛けており、空き家を買い取り分譲地として新たな街づくりにも力を入れています。この機会にぜひ参加を。